

モンテッソーリ教育とマヤ暦(続き)

2. 「モンテッソーリ教育」と「アドラー心理学」

良いとこ取りで成果を上げた保育園

モンテッソーリ教育とアドラー心理学を融合させた教育方針で保育園を運営し、大きな成果を上げている事例が紹介されています。栃木・足利の90代のベテラン保育士の著書にその実践が詳しく記されており、講師も感銘を受けたと語っています。

アドラー心理学との共通点:課題の分離

アドラー心理学の中で、モンテッソーリ教育と特に深く通じる概念が「課題の分離」です。自分の責任と他者の責任を明確に分け、自分がコントロールできないことに意識やエネルギーを向けないというこの考え方は、子どもへの価値観の押しつけをやめることにも直結しています。

ストレスの根本を分析すると、「自分の課題ではないことで悩んでいる」ケースが意外と多いと指摘されています。北朝鮮のミサイル問題を例に、どうにもコントロールできないことに過剰に意識を向けることの無意味さが説かれています。自分が対応できる範疇を見極め、コントロールできないものへの意識はできる限り持たないようにすることが、心の安定につながるというのが核心的なメッセージです。

子育て講座の新展開

アドラー心理学とマヤ暦を融合させた子育て講座(全3回シリーズ)を現在作成中であることが発表されています。コロナ禍を踏まえ、1回あたり45~50分程度の分割形式で映像配信し、一定期間何度でも視聴可能な有料コンテンツとして提供する予定です。アドラー心理学を加えることで、より具体的で実践的な内容になると期待されています。

3. マヤの叡智「ツオルキン」と融合させると

「汝自身を知れ」—ツオルキンが果たす役割

マヤの暦体系「ツオルキン」を融合させることが、講師の取り組みの核心的なポイントです。宇宙図書館の入り口に「汝自身を知れ、汝自身であれ」と書かれているという言い伝えを引き合いに、自分自身の持って生まれた資質や特徴を大まかにでも知ることの重要性が語られています。

モンテッソーリ教育をより効果的に活用するには、「この子にはどの部分を強調すればよいか」をピンポイントで見極めることが必要です。そのための「目安」を提供するのがツオルキンであり、暗中模索にならないための羅針盤として機能するという考え方が示されています。

「強みの発見」ツールとの照合研究

自分の資質や強みを 34 項目で分析できる書籍(日本経済新聞出版)が紹介されています。オンラインテストで自分の傾向のベスト 5 が判明し、追加料金で全 34 項目の順位が確認できるものです(中古品は付属コードが使えないため新品での購入が必要)。

講師は現在この 34 項目とマヤ暦の「音」と「紋章」を照らし合わせ、たとえば「白い鏡の人はこの資質を持ちやすい」「音でいえばこれに当てはまる」といった整合性の分析を進めていると語っています。まだ研究段階ではありますが、ツオルキンで人の特徴を紋章と音から読み解き、それを強み分析と組み合わせることで、より精度高く個性を理解できる体系を目指しているとのこと。

規律性という資質の自己分析

講師自身の自己分析として、34 項目の中で「規律性」——秩序立てた計画、日課の遵守、締め切りへの意識——が自分の最下位であることが明かされ、笑いを交えながら語られています。一方で「コミュニケーション」が最上位であり、「人は物事を忘れる」という前提のもとにインパクトのある表現で伝えることに強くエネルギーを使うタイプだと自己分析しています。このように、自分の資質を客観的に知ること、他者への理解も深まるというメッセージが込められています。

ツオルキンを融合させることの本質的な意義

マヤのツオルキンを取り入れる最大の意義は、「人はそれぞれ違う」という事実を体感させることにあります。違いが腑に落ちれば押しつける率が下がり、子どもへの深い理解につながります。マヤを学ぶことで自分と他者への理解が深まり、寛容さが増し、人間関係がよりスムーズになる——これがマヤ暦を勉強することの 5 つの主なメリットの一つとして、新しいスタートアップベーシックテキストにも明記される予定です。